

平成 26 年度  
(2014 年度)

# 学校自己評価報告書

学校法人 赤門宏志学院

赤門鍼灸柔整専門学校

## 1. 教育の理念及び教育目標

### (1) 建学の理念と沿革

当校は、昭和 22 年（1947 年）4 月に宮城県知事の認可を得て仙台市青葉区大町二丁目に設立し、学校設立のとき掲げた「東洋医学を社会に普及し、国民の医療福祉において社会に寄与する」ことを建学の理念としている。昭和 22 年 12 月に関係法（法律第 217 号）が制定され、按摩マッサージ指圧、鍼灸及び柔道整復の養成教育は、厚生大臣の認定を得た養成学校が行うことが制度化され、当校は全国に先駆けて昭和 23 年 12 月に厚生大臣の認定を受けた。それ以来 60 有余年にわたり建学の理念に基づき教育目標を打ち立て有為な医療人を社会に送り出すために、学校教育において取組んできている。

昭和 24 年(1949 年)4 月、設置法人である財団法人赤門学志院を設立し、学校運営体制を整備している。その後公益法人制度改革により、平成 25 年（2013 年）3 月に学校法人赤門宏志学院が設立され移行している。

学校は、定員を増加することにより東洋医学を社会に普及するため、昭和 32 年(1957 年)4 月に仙台市青葉区川内川前丁に新校舎を建てて移転し、その後、将来の発展のため広い校地を求めて仙台市青葉区荒巻青葉に昭和 58 年(1983 年)8 月に現校舎を新築し移転している。更に平成 19 年(2007 年)4 月に仙台市青葉区国分町二丁目に臨床教育を重視して建学の理念を実施させるため、上級の課程である東洋療法教育専攻科と臨床治療所の校舎を整備した。

### (2) 教育目標

基礎医学を基本とした東洋医学の知識と技術を深く教授し、その知識・技術の練達を計り、人格をともなった有為な医療人を養成し、国民の保健福祉に貢献するとともに、東洋医学・伝統医学を普及して社会の進展に寄与することを使命とする。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 文部科学大臣認定の職業実践専門課程を設置する。
- (2) 入学者を確保するため、前年度より導入した同窓会推薦入学試験の周知活動を推進する。
- (3) 国家試験の新卒者の合格率を例年以上とするよう教育指導を徹底する。
- (4) 医療人として必要なボランティア精神を涵養するため、赤門青年手技医療赤十字奉仕団や学友会活動等を積極的に行う。
- (5) 教員の自己点検・自己評価及び資質向上に取り組むとともに、専門基礎分野の教員構成は大学教員に依存しないように調整する。
- (6) 東日本大震災の被害による施設・設備の復旧工事を行う。
- (7) 社会における東洋医学・伝統医学の受容度を深めるために取り組む。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

### (1) 教育理念・目標

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不十分… 2、不十分… 1
・ 理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・ 学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1

・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 (3) 2 1
・ 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 (3) 2 1
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 (3) 2 1

### ① 実施状況

- ・ 東洋医学・伝統医学は、古くから「あんま」「はりきゅう」「ほねつぎ」として、その名称が知られている割には、社会に普及していなかった。当校は、これらを社会に普及するため、寄宿舎を設備して北は北海道から南は九州沖縄に至るまで、全国各地から入学者を迎い入れ、卒業者を全国に送り出すことによって、60 数年間にわたってすそ野を広げ社会に普及するよう先導的な役割を果たしてきた。

このように、徐々に社会普及してきたと考えられるが、平成 12 年(2000 年)に養成学校の設立が規制緩和されてから患者・利用者の増加がないのにもかかわらず、全国各地に養成学校が毎年増加し、従来から約 9 倍に急増し、また有資格者も増大してきている。

- ・ 職業実践専門課程認定を受けるため、文部科学省に平成 26 年(2014 年)9 月に宮城県の進達を得て申請書を提出した。文部科学大臣から職業実践専門課程に平成 27 年(2015 年)2 月に認定され、専門学校の中で、より一層質の高い職業専門学校として位置づけられることになった。

- ・ 建学の理念・教育目標は学内外に明示してきた。学内においては入学式・卒業式のときの学校長からの式辞において、また新年度のオリエンテーションのときに配布する学生便覧(教育理念、目的、学則、諸規程、学年暦、行事日程など必要なものを記載)に基づき周知徹底的に説明、また学園祭の小冊子、同窓会の会報等に記載して周知している。学外には本校の入学案内書やホームページに記載している。毎年反復して周知しているので、教職員・学生間には認識されているが、学生の行動の実態をみるとすべての学生に徹底して浸透されているとは言い切れない。

### ② 課題

- ・ 入学者には、従来よりも東洋医学・伝統医学にかける心から湧き出る情熱的エネルギーが弱くなってきている弊害が年ごとに見られる。その一因に、従来は入学時には数倍にわたる競争があり、意志堅固な人が入学したと見られるが、現在は楽に入学できることが考えられる。学校全体および各部署の中期目標・計画を策定し学内浸透を図る具体策が必要である。

### ③ 今後の改善方策

- ・ 建学の理念・教育目標を浸透させるために、学外に対してはホームページからの情報発信をさらに充実させていく。入学者は、高校新卒者・大学卒者および社会人経験者から成り、年齢構成も多岐にわたっているため、オリエンテーションなどの機会ごとに、これを再確認しながら意識の徹底を図っていく。また、学内では分かりやすいポスターの作成や、教室や掲示板等への掲示などで PR 強化を図っていく。

- ・ 国家資格取得のための教育は当然として、さらに卒業後を見越し専門科目の教育内容

(実技・実習等)の充実策を策定する。

- ・ 東洋医学・伝統医学を社会に普及するためには、特定の人々が利用する傾向の強い医療から広範の人々が利用できるようにすること、また裾野の広い人々が入学できるようにすること。そのため学校教育では基礎医学の研鑽を積むとともに、技術向上を目ざし、臨床力を高める教育や学校施設・設備を活用した臨床研修等を強化して、医療における地位向上を目ざして一般国民への普及運動は業界とともに行うことが望まれる。

## (2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・ 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
・ 人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
・ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

### ① 実施状況

- ・ 目的や事業計画に沿った運営方針等は策定されている。
- ・ 学校運営のための諸規定は整備されている。
- ・ 学則に人事規定、就業規則に給与に関する制度が整備されている。
- ・ 学校の学年暦、行事日程を情報公開している。
- ・ 学校の組織図を情報公開している。

### ② 課題

- ・ 現状や将来構想を勘案したポジティブな運営方針や事業計画を策定し、それを全教職員に徹底する環境の醸成が必要である。
- ・ 運営組織や意思決定機能は学則等において明文化しているが、有効に機能するように周知徹底して取り組む必要がある。
- ・ 情報システム構築のための戦力が不足しており、リスク管理の面からも重層的な戦力を確保すべきである。

### ③ 今後の改善方策

- ・ 運営方針や事業計画が毎年スムーズに作成できるように種々の情報や資料をデータ化しておく。
- ・ 全体会議や部門別のミーティング等では教職員間の連携を密にして、情報交換や資料の分析を行い次の工程の計画や企画に活かす。

- ・ 情報システム化による業務の効率化と改善提案等を行える資料を作成する。
- ・ 早期に問題点を発見し、早期に改善着手に務めるようにする。
- ・ 人事考課制度として、数値目標を設定して適正な評価に努めていきたい。

### (3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発など実施されているか	④	3	2	1
・ 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・ 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
・ 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・ 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
・ 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提携先を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

#### ① 実施状況

- ・ 当校が設置運営する課程学科は、国家資格を目指す課程学科で、教育目標は明確になっている。教育課程の編成・実施方針は、修業年限に対応し、教育到達レベル、学習時間の確保、学科等のカリキュラムは体系的に編成されている。
- ・ 臨床実習は学内の施設で行われることが法令で定められているので、附属の東洋医学臨床治療所（国分町校舎）において、関係法令に基づきカリキュラムを組み、第3学年に実践的な指導を行っている。

- ・ 治療院などを開業している教員資格のある講師（非常勤）が多く採用され、実技等の授業を担当しているため、学生は実践的な指導も受けている。
- ・ 治療院などを開業している教員資格のある講師（非常勤）が多く採用されているが、研修会を開催して、新年度の方針や授業内容についての意見交換、定期試験の前後に授業達成度の検証及び評価点検を行い、常勤教員との連携を図っている。
- ・ 東北大学での解剖実習、各学会等の参加を促し学生意欲向上に努めている。
- ・ 鍼灸指圧科及び鍼灸科第一部・第二部は（公社）東洋療法学校協会による実技認定試験を外部評価者（他校教員）によって第3学年に実施している。柔道整復科及び柔道整復科第二部は（公財）柔道整復研修試験財団による認定実技審査を学部評価者（他校教員）によって第3学年に実施している。
- ・ 成績評価・単位認定の基準は、学則・試験実施要項に明記し、教職員に周知している。学生に対しては、学生便覧・試験実施要項に記載し周知している。
- ・ （公社）東洋療法学校協会及び（公社）全国柔道整復学校協会の教員研修会、業界の学術大会等に積極的に参加し、資質の向上に務めた。
- ・ 西洋医学に東洋医学を組み込む統合医療を目ざし、これを推進している医師を講師とする統合医療セミナー（通年で4回）について、当校は積極的に関与し、業界にも呼び掛けるとともに、当校の全教員に受講させて、資質の向上に努めた。
- ・ （公社）東洋療法学校協会が主催するあん摩マッサージ指圧師はり師きゅう師の国家試験模擬試験に参加し、良質な試験問題作成や勉強会を通じて教員の資質の向上、学生の国家試験の対策を図った。
- ・ 当校は従来より学生を基本的に大人扱いとしてきたので、学生の行動は本人に帰せられている。学生のなかには、成績評価、単位認定について保護者（保証人）に報告しない者がいるので、成績評価について半期ごと保護者（保証人）に直接送付している。

## ② 課題

- ・ 人をつくるのは教育力以外には策はないとの認識で、授業内容と教員の指導力の改善を図る必要がある。
- ・ 治療院を開業している教員資格のある講師（非常勤）によって、専門的な職業実践の授業科目がすでに行われてきているが、教育活動において徒弟的な上下関係の弊害が見られる。そのため、人間関係の内部をうまく処理できるようにする。
- ・ 校歴のある養成学校では、規制緩和以降（平成12年、2000年）、入学生の学力の差が年々はなはだしくなり、その上全体的に学生の学習意欲が低下してきていることが共通認識として持っている。医療系養成学校の授業科目は、専門性が高く多様化しているため、大学等の講師が多く採用されており、講師も教育内容の質を維持し向上させるため教育方法をこらしてはいるが、学生の実際のレベルに合わせて授業を行うことは教育内容の質の低下を来たすようなことで、できない問題がある。
- ・ 治療院（施術所）の任意の訪問見学は、実際的な見学実習でき意義のある研修になるので、学校の休業期間中に行うように推奨してきたが、訪問見学した治療院に就職するように強要される弊害も見受けられる。
- ・ 柔道整復科の専門科目のうち、医師であることが講師の資格要件となる臨床科目の一部について、医師のインター制度が発足以来、講師の確保が難しくなっている。

### ③ 今後の改善方策

- ・ シラバスを開示する。
- ・ 学生による授業評価の実施。
- ・ 授業評価の集計と教員へのフィードバックの実施
- ・ 実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発を進める。
- ・ 専任教員について、世代交代時期を見据え、専任教員の適任者を育ていく必要がある。そのため、関連分野の講習会等に積極的に参加するとともに、学内の研修会を強化して教員の資質の向上に努める。

### (4) 学修成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不十分… 2、不十分… 1			
・ 就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・ 資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
・ 退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

#### ① 実施状況

- ・ 鍼灸師・按摩マッサージ師の資格者を取得した者に対して、より高度な専門知識と臨床能力を備えた人材を社会に送り出すため、上級の課程として2年制の東洋療法教育専攻科に学生を受け入れ、また1年間の臨床実習生も受け入れ、卒後臨床研修に資している。
  - ・ 柔道整復師の資格者を取得した者に対して、(公社)柔道整復研修試験財団が実施している1年間の卒後臨床研修に積極的に参加するように指導している。
  - ・ 伝統校なので、各地の同窓生など先輩からの求人は大変多いが、就職担当者による在校生、卒業生向けの求人情報の掲示及び個別相談等を実施している。
  - ・ 各クラス担任による学生の成績出席状況の把握と個別指導を実施している。
  - ・ 資格取得100%を目標として指導体制を構築し、成績不良者に対して、授業外で補習教育を実施している。

#### ② 課題

- ・ 退学者の退学理由等を統計的に把握し、その可能性がある学生に対しての対応策を講じ、最終的には0%を目指す。
- ・ 校歴がある養成学校として、同窓生からの求人も含めて求人数は多く就職率はよいが、学生の要望は社会で求めている業種や地域に必ずしも対応していないようにみられる。

#### ③ 今後の改善方策

- ・ 教職員の連携を基に、成績不良者に対して授業の内外において対応策を立てる。
- ・ 地元志向が強いことが就職にも表れているが、各地で就職できるように適切に指導する。

- ・ 同窓生との連携を密にし、幅広い分野で活躍できるルートの確保をする。
- ・ 東洋療法教育専攻科について、就職状況や学生のニーズに対応した幅広い採用枠を開拓する。

#### ④ 特記事項

- ・ 新卒者の国家試験資格取得率については、あん摩マッサージ指圧師試験では、毎年ほぼ全員合格し、はり師きゅう師試験では、1～3名の不合格者があるのみで、柔道整復師試験では、過去3年間で見ると平成24年度不合格者1名、平成25年度は全員合格と良好であったが、平成26年度は全国平均を上回ったものの5名不合格であった。

#### (5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・ 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・ 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
・ 卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

#### ① 実施状況

- ・ 健康診断の実施、またクラス担任による学生相談を行い、学生の健康面、経済面から安定した就学ができるようサポートしている。
- ・ 保護者との3者面談が必要な学生に対して、3者面談を実施して学力及び生活について強化をはかっている。
- ・ 進路相談・就職相談は、個別ごとに適切にサポートしている。
- ・ 独立行政法人日本学生支援機構の奨学金（要返還）や国の教育ローン（日本政策金融公庫）を活用して、学生の経済的な面について相談や事務手続きなどで支援を行っている。
- ・ 地域に開かれた学校を目指して、鍼灸学科・柔整学科の学生が構成する学友会が企画・運営する学園祭（赤門祭）を支援。青葉山校舎では、「一日治療院」を実施し、按摩マッサージ指圧治療に2日間で約200名の患者に無料治療を行う。国分町校舎にある附属東洋医学臨床治療所では、「一日鍼灸治療院」を実施し、鍼灸を主として按摩マッサージ指圧治療を入れて、2日間で約140名の患者に無料治療を行う。



- ・（公社）全国柔道整復学校協会主催する全国柔道大会に参加するために経済的に支援を行う。また（公社）東洋療法学校協会及び各業界団体が主催する学術大会に参加するために経済的に支援を行う。
- ・ 業界団体が主催する学術大会等に学生が参加できるときは、参加費等で経済的に支援を行う。
- ・ 柔道部、操体法クラブ、気功クラブ、鍼灸クラブ、指圧クラブ、美顔クラブなど各クラブ活動による特色ある課外活動の向上を図っている。
- ・ 遠隔地から就学している学生を支援するため、学校が直接運営管理している学生寮1棟（男子定員43名）を学校から徒歩4分の場所に設置し、教職員（寮監）の指導を受けている。
- ・ 校舎などの建物には防犯装置がすでに設備されているが、学生寮にも防犯カメラを平成26年11月に設置し、防犯上の措置を講じた。
- ・ 国民年金保険料学生納付の特例申請について、平成26年10月から日本年金機構の事務法人となり、学生に便宜を図っている。
- ・ 国家試験不合格者の卒業後の対応として、学校での国試関連科目の聴講を推奨している。また模擬試験の受験などは在校生と同様に取扱いを行って支援している。

## ② 課題

- ・ 進路・就職に関して学生は自主的に判断しているが、キャリア教育・職業教育から上級学校への進学相談及び就職斡旋相談を強化するなどして積極的に指導する必要がある。
- ・ 従来は独立開業を志向する学生が多く、就職は臨床研修の意味合いが強かったが、最近では自立精神の低下が見られるようになってきた。
- ・ 奨学金を受けている学生は、約3分の1に達し、その額が多い学生は修学3年間で400万円以上にもなり、奨学金は卒業後返済義務があるため、これが就職にも影響し、安易な道を選び給料が高ければいいという所に就職する傾向がある。

## ③ 今後の改善方策

- ・ 相談窓口を充実化し学生等が有効活用を図ると同時に、学生に対して積極的な就職斡旋業務を行う。
- ・ 就職斡旋業務がスムーズにできるように、就職担当者による求人先との情報交換や緊密化を図る。
- ・ 就職説明会や同窓生との相談会を実施する。
- ・ 関係業界団体と更に密接な関係を深める。
- ・ 仙台市営バスの路線バスを陳情誘致をして、市営バスが仙台駅から学校の停留所まで運行されてきたが、学生等の利用率がよくないため運行本数がどんどん減少してきた。スクールバスの運行は、これを補充するために行ってきたものである。
- ・ 平成27年12月に開業する仙台市営地下鉄東西線にともない、地下鉄駅から800m圏内は、市営バスが大幅に運行が見直され、当校は地下鉄駅(青葉山駅)から800m圏内に入り、仙台駅から学校までの運行は廃止となる。スクールバスの運行計画をどうするか検討するとともに、無料運行が妥当かどうかを検討する。

#### ④ 特記事項

- ・スクールバスを配置し、運転手2人を雇用して「仙台駅」まで9:00～21:30のあいだに一日8往復して無料運行している。利用学生の利便をはかるとともに、学生の通学費は大部軽減されている。
- ・約100台駐車できる大型の駐車場を設置し、利用学生の便宜供与をはかっている。
- ・校歴があるので「赤門卒」は全国の業界ではよく知れわたっており一種のブランドのように見られ、同窓会は48都道府県に支部を置かれている。

#### (6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

#### ① 実施状況

- ・本校施設は設置基準に定められている教室及び実技実習室・柔道場並びに学生の学びの場としての図書室(3954冊登録)等の拡充、実践的な実技指導を行える付属の東洋医学臨床治療所(治療ベッドブースは20個所)は、仙台の中心部に設置され十分な環境を備え整備・充実を図ってきた。
- ・東日本大震災の被害による施設・設備の主な補修工事は3年計画で実施した。大震災の施設・設備不良の後遺症がまだ見られ、施設・設備の補修工事を行った。
- ・法令で定められている施設・設備については定期点検を実施して、不具合等の発生時においては迅速に対応できる体制を構築している。
- ・柔道場は冷暖房付きの大型柔道場(102畳及び床スペース、ロッカールーム、シャワー設備付き)を有し、授業科目の「柔道」だけでなく、健康維持増進のため利用されている。
- ・安全を配慮するため柔道場の畳の下面の床を全面的にわたり、平成26年8月に修理工事を行った。
- ・「バレーボールコート」が整備され、健康維持増進をはかるとともに、親睦融和をはかるため校内球技大会などが実施されている。
- ・災害時対応とし「防災マニュアル」規定を整備している。防災訓練は、学生・教職員が参加し訓練を実施している。万一のため、非常用飲料水(ペットボトル300本)を備蓄している。また学生寮にも非常用飲料水ほか非常用食料品(乾パン)を備蓄している。
- ・AEDを整備し、身体不調の緊急時に対応している。

#### ② 課題

- ・必要な施設・設備の取得や更新について長期計画のもとに適宜検討する。

### ③ 今後の改善方策

- ・全体会議や各部署のミーティング等による現況・不具合等の把握・周知とそれらの改善方策の策定。

### (7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
・学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	4	③	2	1

#### ① 実施状況

- ・（公社）東洋療法学校協会及び（公社）全国柔道整復学校協会の倫理規定に基づき、入学試験を実施している。
- ・入学試験においては、面接・適性検査を行うとともに、学力を試すため、原則として学力考査（国語）を実施している。
- ・入学要件、入試区分などを定め適切に運用し、入学試験委員会の入学選考会議で合否を確定している。
- ・虚偽・誇大・誤解を受けるような広告は排除し、事実が正確に伝わるように卒業生の実績・在校生の修学の実績の好結果（国家試験など）を募集活動に活用して情報を発信している。
- ・学校見学・説明会として毎年2回以上「オープンキャンパス」を実施している。
- ・学校見学や説明会は、希望者全員に個別的にも行っている。
- ・高校主催（広告業者が媒介することが多い）の職業紹介と学校紹介には、東北一円の高校に赴き、積極的に説明を行った。
- ・規制緩和以前（平成12年・2000年）、鍼灸学科と柔道整復学科を併せて設置する養成学校は、全国には当校を含めて6校（東京2校、大阪3校、仙台1校）にすぎなかった。当校は、東洋医学・伝統医学を広く学ぶことは、将来、開業等で有利になることから、開校以来、両方の免許を取得するよう推奨し、多くの学生が両方の免許を取得して社会に出ている。規制緩和以降、全国的に両方の学科を設置する養成学校が多くなったが、当校は従来どおりの方針を維持し、すべての学科の入学金を大幅に減額して、入学しやすく門戸を広げた。更にその後、一つの学科を卒業し、また別の学科に入学する在校生・卒業生に対して、入学金を半額等にする措置をとって入学を推奨している。
- ・入学辞退者に対する学納金返納の取り扱いについては、文部科学省及び最高裁判所の判断に基づいて募集要項に記載し適切に取り扱っている。
- ・当校の学納金については、消費増税8%と学校運営から関係の同種他校の状況を勘案して見直しの必要があった。学科別では当校の学納金は、鍼灸指圧科が卒業までの3年間で322万円、鍼灸科第一部が304万円で鍼灸指圧科と鍼灸科について卒業までの3学年間で見ると、他校では100万円以上のひらきがあるが、当校ではわずか18万円の差となっているところ、鍼灸指圧科の学納金を3年間で340万円、鍼灸科第一部の学納金を3年間で

で310万円に改正し、そのひらきは30万円となった。

- ・スマートフォン普及率の拡大状況（特に若年層）を鑑み、スマートフォン専用ホームページをリニューアルし公開し、同時にPC用HPのリニューアル公開も行った。

② 課題

- ・学生募集活動は、従来からその効果について把握をしているので、経費は重点的にかける体制で行っている。教職員全員が一致協力して営業活動の活発化を図る必要がある。

③ 今後の改善方策

- ・在校生・卒業生の母校（高校・大学）への募集営業活動を強化する。
- ・一般社会人からの入学生が比較的に多い現状を認識し、職業実践給付金制度の養成学校（鍼灸指圧科、鍼灸科第二部）として認可されたので、より一層、社会人入学の募集活動を強化する。
- ・同窓会との連携を強め、紹介や各地域で共同しての募集営業活動を強化する。
- ・社会人向け入学者の専門実践教育給付金の指定校として3学科（鍼灸指圧科、鍼灸科第二部、柔道整復科第二部）が平成26年9月から厚生労働省から認定された。

(8)財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

① 実施状況

- ・学納金収入が入学生の減少によりここ数年間不安定で、今後行うべき事業計画に食い込み影響を及ぼしてきている。
- ・講師を医師に委嘱している授業科目が多いため、講師の人件費が増大してきている。

② 課題

- ・柔道整復科及び東洋療法教育専攻科の入学者状況が、特に東日本大震災以降よくないので、学納金収入が減少している状況が続いている。

③ 今後の改善方策

- ・法令で医師以外でも担当できる授業科目については、積極的に資質の向上をはかってもらい、医師以外の教員にも担当させる。関係の大学院で専門基礎科目に属する分野について、社会人学生として入学して勉強したい教員を支援する。現在、当校の教員のうち、修士課程に2名在学し、当校を卒業した教員のうち、博士号取得者は3名、修士号取得者は2名となっている。

④ 特記事項

- ・学校法人の前身である財団法人赤門学志院（公益法人制度改革のため解散）が設置運営していた美術館の美術品を継承して資産として管理している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
・自己評価結果を公開しているか	4	③	2	1

① 実施状況

- ・学校教育法・専修学校設置基準、あん摩マッサージ指圧師はり師きゅう師学校養成施設認定規則、柔道整復師学校養成施設指定規則等に基づき、学則変更などの手続きを適正に行っている。
- ・個人情報に関しては、すべての個人情報の取扱いを厳格に定め教職員はこれを認識して活動を実施している。
- ・教育課程評価等の教育情報は、学校案内及び学校ホームページで情報提供している。
- ・学校関係者評価等は、原則的に関係者に公表している。

② 課題

- ・著作権や個人情報保護等の重要性の認識について、一部の教職員には認識が低い傾向がみられる。

③ 今後の改善方策

- ・法令順守等については各人の業務内容にあった資料を作成し、啓発活動を推進していく。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
・学校の特質に応じた社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 実施状況

- ・日本赤十字社宮城県支部から公認された、「赤門青年手技医療赤十字奉仕団」が設立され、医療人になる者はボランティア精神が特に必要であるとの認識で奉仕活動を行っている。これまで献血活動等が認められ厚生労働大臣、宮城県知事や日本赤十字社などから表彰を受けている。平成26年度は当校として2度目の厚生労働大臣表彰を受けた。
- ・各業界団体と連携し、学生の研修会参加やスポーツ大会（マラソン大会など）への

ボランティア参加（救護・施術補助）を周知・斡旋・教員による引率などを行っている。

- ・ 日本赤十字社宮城県支部に協力金を拠出し、また東北大学白菊会（解剖実習の篤志献体の団体）に賛助会費として協力金を拠出し、その活動を支援している。
- ・ 仙台川内亀岡交通防犯安全協会に協力金を拠出し、その活動を支援している。

② 課題

- ・ 各関係業界、他団体との交流について検討しながら実施している。

③ 今後の改善方策

- ・ 各業界との連携を密にし、情報交換・交流を行い、学生のニーズを満たすとともに地域社会に貢献できる具体策を講ずる。

(11) 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
・ 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	③	2	1
・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1
・ 学内で適切な体制が整備されているか	④	3	2	1

① 実施状況

- ・ 外国籍の留学生の受入れは、これまで多数の者を支援してきた。この姿勢は今後とも堅持していく。
- ・ 海外研修は資質の向上につながる面があるが、問題点として多額にわたる費用がかかることである。個人が海外研修を希望したいときは、催行者が主催する海外研修について便宜を図って参加を促している。

② 課題

- ・ 当校で取得する資格は、日本の国家資格なので本国に持ち帰っても認められない事が多い。基本的には、わざわざ来日して取得しなくともよい資格になっている。